



はたちを迎える41名の門出

未来へ駆け出す「はたちの決意」

1月12日(日)文化会館で「はたちの集い」が執り行われました。当日は、対象者41名のうち男性14名と女性11名の総勢25名が出席しました。本号では、式典の様子と出席者インタビューについて紹介します。

華やかな晴れ着やスーツ姿の皆さんが会場を訪れ、懐かしい友人との再会を喜び合いました。思い出話や近況報告などして談笑したり、スマートフォンで記念撮影する様子が見られました。

式典では、参議院 牧野京夫議員、町議会 石山貴美夫議長から祝辞が贈られ、真剣に耳を傾けながら厳かな雰囲気で行進されました。

記念行事は、恒例の赤石太鼓保存会の演奏で始まりました。今年「は、町のイメージキャラクター」オチャッピー」も演奏に参加し、力強い音色で二十歳の門出を祝福しました。また、小中学校時代の懐かしいアルバム写真がスクリーンに映し出されると、友人と顔を合わせたったり、笑顔で楽しむ様子が伺えました。

二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。これからたくさんのお会いや新たな繋がりの中で、多くの困難にぶつかります。そして、決断は自分自身で選択することになります。いつでも自分の強みを理解し、柔軟に物事を受け入れていってください。

はたちのインタビュー



あいとう りお
相藤 里緒さん (藤川区)

友人と再会してみて、男の子は変わりなく、女の子はみんな綺麗になっていました。

現在は医療系の大学で放射線について研究しています。そして将来は、放射線技師として活躍したいです。

家族のみんなへ

20年間支えてくれてありがとう！これからも目標の実現に向けて頑張ります。応援しててください。

友人と再会し、変わってない人や垢抜けた人も何人が居て、懐かしい気持ちになりました。

現在は大学で、経営学を専攻し、マーケティングや広告について学んでいます。

20歳になった実感は無くあつという間でしたが、家族には今までありがとうと伝えたいです。そしてこれからもよろしくをお願いします



わだ はるか
和田 悠さん (田野口区)



ごとう ひろ
後藤 央路さん (接岨区)

久しぶりに再会した友人は、面影があり懐かしく感じました。

今は、社会人2年目で、長島ダム管理所で働いています。普段は広報活動や湖面巡視、放流の管理などを行っています。これからも、自分の役割をしっかりと果たし、仕事と趣味の両立で頑張ります！家族へ、20年間支えてくれてありがとう。



さわもと きょうた
澤本 京太さん (高郷区)

友人と再会して、皆それぞれが立派に成長し話しが盛り上がりました。

現在は大学でスポーツを専攻し、研究しています。今は、これといった目標はありませんが、将来は楽しく幸せに生きたいです。また、趣味の野球でも活躍できるように頑張ります！家族にはこれから少しずつ恩返しをしながら感謝を伝えたいです。

未来のハタチ

三ツ星学園、光の森学園、川根高校の児童生徒が、運営ボランティアや「お祝いの言葉」で、先輩たちの晴れ舞台に華を添えました。



(上段)国歌斉唱の指揮・伴奏の様子

(下段左)受付の様子

(下段中央・右)第1部では川根高校3年の山内美琴さんが、第2部では川根高校3年の神長貴弥さんが司会を務めた。



三ツ星学園6年
やまもと しほ
山本 珠奈さん

みなさんは、小学生のときに思い描いていた未来を、実現することはできていますか？

私たちは4月から、新しい義務教育学校、三ツ星学園の6年生としてがんばっています。みんなで考えを出し合って、どうすれば三ツ星学園が楽しい学校になるか考え、行動してきました。みなさんが卒業した本川根中学校・中川根中学校という名前は変わってしまいましたが、みなさんが築いてくださった伝統は、しっかりと引き継いでいきたいと思っています。



三ツ星学園6年
たかはた こほく
高畑 心花咲さん

私たちは4月から7年生になります。それぞれの夢の実現のために、今まで以上に勉強や部活を全力でがんばっていきたくと思っています。みなさんも、それぞれの夢に向かって、がんばってください。



川根高校3年
たかさわ あいり
瀧澤 愛莉さん

小学生や中学生の頃、困ったことがあった時、いつも優しくアドバイスをしてくださいました。とても心強かったです。先輩方の温かい言葉や手を差し伸べてくださったことはきっと私だけではなく、皆さんと関わった多くの後輩たちも感謝の気持ちでいっぱいだと思います。

はたちを迎えることは人生において新たな一歩であり、これからさまざまな出来事を経験することでしょう。しかし、先輩方ならどんな困難も乗り越え、自分らしく歩んでいけると信じています。どんな時でも、自分を大切にしながら前進し、充実した日々を送られることを心から応援しています。

式辞

そのだ
蘭田

やすくに
靖邦

町長



新春の良き日に、晴れて二十歳を迎えられた41名の皆さん、誠におめでとうございます。また、本日まで皆さんを愛情深く立派に育ててこられたご両親をはじめ、ご家族の皆様におかれましてもお祝い申し上げます。

本日、晴れて二十歳となられた皆さんには、さらにこれから社会の一員として重い責任が生じて参ります。自らの判断と責任により行動することが求められます。決して平坦ではありませんが、一日一日を大切に積み重ね、自分の将来の理想を思い描きながら、夢に向かって歩んでほしいと思います。

私たちの社会は、多様性に富み、さまざまな価値観が存在しています。皆さんには、自分自身の意見や信念を大切にしつつ、他者の意見にも耳を傾ける姿勢を持っていただきたいと思えます。

さて、皆さんが生まれ育った川根本町は、合併してから20周年を迎え、未来に向けて更に整えていく時期に移ります。

未来ある皆さんが、地域社会に貢献し、地域の一員として、互いに助け合い、支え合うことで、より良い町づくり、そして社会を築いていくことができると信じてい

ます。

私自身、4年目の集大成を迎えます。未来ある町を築くには、心の置き方一つで物事の見え方や捉え方が変わってきます。成功とは、多くの失敗から学ぶものだと感じています。

この町の自慢でもある温かい人間性と恵まれた自然環境、そしてここにおられる友と過ごした思い出を忘れずに、一人でも多くの皆さんがふるさとである川根本町に関わっていただくことを期待しています。



記念品授与

町長から記念品を受け取る、湯口 峻祐さん（地名区）

謝辞

はるた
春田

ひろな
浩奈さん
(小長井区)



私たちは二十歳となり、すでに就職している者や学業に励んでいる者など活躍の場は様々ですが、故郷である川根本町で過ごしてきた日々を糧に、前に進んでいます。私は高校卒業までの十八年間で、この川根本町で過ごしました。私は家族をはじめたくさんの方々に支えられ、この川根本町で、自分らしく、様々なことに挑戦し、経験を積むことができました。小学生や中学生の頃には、個性豊かな同級生と、人数が少ないながらもみんなで切磋琢磨しながら、学校生活を築くことができました。また、進路や学校生活の相談に親身になって寄り添ってくださる先生方や支援者に出会い、さらに中学生の時には理科の研究に挑戦し、学びや探求の楽しさを教えていただきました。

子どもたちや学生の支援に携わりたいと思っています。最後にになりましたが、晴れて二十歳という大きな節目を迎えることができたのは、私たちを支えてきてくれた、たくさんの方々のおかげです。これからも皆様への感謝の気持ちを忘れずに、次は私たちが誰かの力になれるよう精進して参ります。まだまだ未熟な私たちですが、今後の活躍とさらなる成長をお誓いし、謝辞とさせていただきます。



▲記念行事の赤石太鼓披露では、オチャッピーも駆けつけ、はたちの皆さんを祝福しました。

はたちの主張

原田 瑛司さん (瀬平区)



私には夢があります。それは「幸福に生きる」ことです。漠然としていますし、こういった場ではきつと明確な夢や目標を発表することが正しいのでしょうか。私自身、現在大学で心理学を専攻しており、そのような知識を用いてさまざまな人々を救いたいという明確な夢があります。では、なぜあえて「幸福に生きる」という言葉を夢にしたのでしょうか。ある時、私は思いました。「もし、心理学で成功したとして、僕はその先に何を目標に生きていくのだろうか。そもそも、僕は心理学にいつまで興味を持ち続けることができるのだろうか」もちろん、現在の夢は心理学での

成功ですし、この夢は人生を賭けて追い求めたいと思っています。しかし、自分自身を未だに信じきれない時もあります。

そんな時、日本・中国・韓国の三カ国で行われる交流会に参加する機会がありました。参加している各国の小学生と交流する中で、子どもたちがとても幸せそうに見えたのです。それは、きつと全てが今までに体験したことがないことだったからでしょう。そして、私も子どもたちと一緒に活動する中で同じ感覚を抱きました。この時から「そうだ、幸福に生きることを目標にしよう」と思ったのです。

「幸福に生きる」という目標は、具体的な職業や成果に縛られず、もっと広く深いものだと感じます。それは、どんな状況でも自分を見つめ直し、自分の心の声に耳を傾け、今の自分にとっての幸せを追求すること。その瞬間から、私の夢は「幸福」という言葉に込められた意味を探求しながら、常に自分の生き方を問い続けることになりました。

もちろん、これは簡単なことではありません。幸せの形は人それぞれ違いますし、時とともに変わるものです。また、「幸福に生きる」という言葉自体が抽象的で、一見すると目指すべき道筋が見えづらくもありません。しかし、だからこそこの目標は私にとって価値

があります。変わりゆく環境や新しい挑戦の中でも、この目標は私を見失わないように導いてくれるのです。

今、私は心理学を学びながら、その知識を活かして公認心理士等の資格を取得し、さまざまな人たちの心を支える仕事を目指しています。この具体的な目標も、私にとっては「幸福に生きる」という夢の一部です。人の幸せに貢献することが、自分の幸せにもつながると信じているからです。

はたちの集いという節目の日に、この「幸福に生きる」という夢を皆さんに伝えられることを嬉しく思います。この場を借りてお伝えしたいのは、皆さん自身の幸せも、ぜひ自分なりの方法で追い求めてほしいということです。私たちは、これから多くの困難や選択に直面するでしょう。しかし、どんな状況でも自分の心に問いかけ、自分らしい「幸福」を見つけていけることが人生の豊かさそのものだと思います。

最後に、私をここまで支えてくださった全てのみなさまに改めて感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして、この先の未来で出会うすべての人たちに感謝の心を持ちながら、私は「幸福に生きる」ことを目指して歩んでいきたいと思えます。

これからもどうぞよろしくお願

恩師からメッセージ

第2部の記念行事では恩師から、はたちの皆さんにエールが贈られました。



なかむら てつや
中村 哲也さん

本川根小学校6年生の頃の担任でした。みなさんそれぞれが、自分の夢や目標に向けて努力していることでしょう。そしてその分、多くの失敗もあります。過去は変えることができませんが、未来は変えることができます。今後も未来を変える自分になってください。



もちつき たかまさ
望月 敬正さん

中央小学校の頃のみなさんのイメージは、誠実で優しい子が多いという印象です。高学年になると、委員会で忙しくなる時期でしたが、仲間と協力して頑張ってくれました。今後もみなさんの活躍を応援しています。体に気をつけてこれからも頑張ってください。



ますい りょう
増井 涼さん

中川根中学校の頃、みなさんが高校受験を控えていたとき、コロナウイルスが蔓延し始め、とても苦しい時期を共に過しました。それでも自分の進路実現に向けてたくましく努力されるみなさんの姿が印象に残っています。これからもう更にたくましく進み続けてください。



おた ゆき
太田 由喜さん

南部小学校で出会えた方々のみなさん。今では自分より大きくなり、こんなに立派に成長され嬉しくありがたい気持ちです。これから夢と、勇気を持って、友人を大切にして、大いなる活躍を期待しています。



まきた たく
牧田 剛さん

本川根中学校で、担任を持ちました。以前は大きな学校での勤務だったため、自然豊かで生徒との距離が近い環境がとても新鮮で印象的でした。文化祭の企画も生徒と考えたり、思い出の濃い時間でした。はたちを迎えられたみなさん、おめでとうございます。



まつうら ひろのり
松浦 弘典さん

久しぶりにみなさんの顔を見て、担任をしていた本川根小学校の頃の面影があり、当時の懐かしい記憶がよみがえりました。成長したみなさんの姿を見るというのも、また違ったうれしさが込み上がります。これからもみなさんの道を応援しています。





当日の様子を町公式ホームページで紹介しています。

下のQRコードにアクセスして、ぜひご覧ください。

